



戸塚教会だより

2026年2月号 No.247 発行：カトリック戸塚教会

皆が集い安らげる教会

《2025年度活動方針》

「わたしについて来なさい」

主任司祭 田丸 篤

イエス様は漁師をしていた兄弟に「わたしについて来なさい。」と声をかけられます。イエス様の方から近づいて声をかけられます。弟子たちがイエス様に近づいて「弟子にしてください。」と願ったのではありません。イエス様の方から先に近づいてくださり声をかけてくださったのです。私は自分の召命を思い返すとき、神様が先に私に働きかけてくださったということを感じます。他の方のことはわかりません。でも自分の場合は確かに神様が私をこの道を歩むように招いてくださったと思っています。自分でいろいろと調べてこの道に入ったのではない。神様が私にこのような道を望む心を与えてくださった。心にうながしを与えて呼びかけ、働きかけてくださった。本当に不思議な神様の業そのものだったと思います。私は両親がカトリック信者だったので、生まれてすぐ洗礼を受けました。小さいときは家族みんなで教会のミサに与っていたことを思い出します。また子どもの頃は主日のミサで侍者をするをとて喜んでいました。大学生になって親元を離れて生活するようになってから、神様からの不思議な呼びかけがあったように感じます。教会の仲間や信徒の方々との関係に恵まれたこと。そして教会の中で信仰の分かち合いを大切にしていたこと。私は週に1度教会でグループの人たちと一緒に生活を通して信仰を生きる分かち合いに参加していました。そしてそれを通して私の信仰を深められ、将来への道は大きく変化しました。私は大学を卒業して2年間の社会人の生活を経て、イエズス会に入りました。イ

エズス会に入ってから苦しいことはたくさんありました。それでも辞めずに続けることができたのは、この道に入ったのは自分にとって都合がよいからということではなかった。神様に呼んでいただいた。そしてそのように道を開いていただいた。そこには神様の思いがあったということ。そうだとしたら自分の都合だけで辞めてしまうことはやめよう。そんな思いがありました。そして辞めずに今に至ります。そしてこれでやはりよかったと思っています。

「私について来なさい。」と言われるイエス様。その呼びかけには神様からのあたたかい愛に基づいた心が込められていると思います。単なる義務を与える呼びかけではなく、愛からくる、そして神様の呼びかけに従って歩むことがやはり一番良かったという道なのということ。私たちがまず神様が先に私たちへの愛を示してくださったことを信じ、そのことをしっかりと受けとめ、私たちもその神様の心に応えて歩むことができるように祈りたいです。その歩みが私たちに本当の喜びと幸せをもたらすものとなりますように。そして神様を信じて、神様につながって人生を歩むことが一番素晴らしいことであるという確信を持ってこれからも歩み続けていきたいです。



★★ 信徒の声 ★★

「シスターSのお話し会」を聴いて

F.N

昨年11月27日(木)に原宿修道院にてFMMシスターSによる、お話し会がございました。

シスターSはエジプトでのミッションをお話し下さいました。エジプトと聞くと、ギザのピラミッドやスフィンクス等のイメージでしたが、シスターSのお話しは全く違うものでした。

シスターSはエジプトのアレクサンドリアで22年間ミッションを果たされました。

エジプトは、宗教的、文化的な背景により近親婚が多く、その為に知的障害者の割合が高いとされております。

シスターSは、特殊教育に力を入れられ、4人のエジプト人と一緒にカイロに2つ、アレクサンドリアに2つ学校を作られました。そのご苦労をされた事等、エジプトの現状等を、お話し下さいました。

シスターSは1977年、FMM100周年の時に海外宣教の為にカイロに旅立たれました。1年間フランス、パリでフランス語を学ばれ、シリアのダマスカスでアラブ語を3年間学ばれました。方言が多いとの事で、とてもご苦労されたそうです。

その時、シスターのお父様が仰っておられた【全てに感謝しなさい】というお言葉に励まされたそうです。

その後、エジプトのアレクサンドリアに派遣され21年間宣教されました。アレクサンドリアの修道院には、レバノン人、シリア人が多かったそうです。その他、スペイン人、フランス人…。教会には3人の神父様がいらっしゃったとの事でした。

慣れないエジプトでの生活も、感覚的に豊かな知的障害者と関わりたい、という思いでおられました。エジプトの宗教は、イスラム教が9割を占めコプト教(エジプトのキリスト教)は1割です。

宗教内での近親結婚が多く知的障害者が国内の10%と言われております。

その中でシスターはカイロ、アレクサンドリアに特殊学校を作りたいという導きを感じたと仰っておられました。7カ月かけて学校を作り、始めは15人の生徒からのスタート。18歳までのダウン症、自閉症の生徒がおり、家庭訪問もされたそうです。

授業も様々で全ての教育となるお料理の日、エクスポ、学芸会、キャンプ、ボーイスカウト、遠足等々様々なプログラムが組まれました。

海のキャンプも毎年行かれ、「私は、水の着物を着ている」と言った子どもがいたそうです。

私は、なんて素敵な表現だと思いました。

JICAの男性3人の協力も得て、カイロに電車で3時間かけてたまに行く事もあったそうです。

子ども達はカイロで何も言わなくても、ゴミ拾いをする等、とても素直で繊細。ラマダンもきちんと教えを守ったそうです。その他、普通級と一緒に音楽の授業を受けたり、通学バスにも一緒に乗ったそうです。

そして「言葉から祈りを頂く」というシスターのお言葉に感動致しました。フランス語のお祈りは、とても綺麗だそうです。

エジプトのお国柄、何でも日本と逆さまだそうです。のんびり、全く時間のない世界、きちんと何かをするという事が無い。貧しい人の事を考え、教え、便利な物を使わず、その分お仕事をしてもらおうとその人のお給料になる。

日本では、便利な物を使い人件費を削りますが、まさに貧しい人ファーストと感じました。そして、エジプト人は一人でいることはなく、皆温かでおおらかだそうです。日本人が見習いたいところです。

観光での視点しかエジプトを見ていなかった私には、シスターのお話しは驚く事ばかりでした。シスターのミッションは、ご苦労の数々だったかと思いますが、それよりも多くのお恵みがあったのだとシスターのお話しから感じました。



アレクサンドリアの旗

エジプトに神様の豊かなご祝福がこれからもございます様にお祈りしております。

最後にこのお話し会の機会を下さった H 院長様とシスターS に心からの御礼を申し上げます。



古代エジプトで聖なる花とされた水蓮

生きる

「男が北国の山道でヒグマにバツタリ出くわしました。獰猛なヒグマを目前に男は観念しました。もはや、これまでと。

だが、ヒグマはすぐに男を襲わなかった。しばし黙っていた。なにをしていたのか?ヒグマは『食前の祈り』をしていたのです。その一瞬に男は逃げ出し助

かりました。男は神と敬虔なヒグマに感謝しました」

少しもじったが、これは、北国のジョーク好きな神父が、ミサの説教で話したことだ。聖堂で聞いていた信者は、みなコケた。神父は祈りの力について説いたのだが。



このヒグマ男にもみられるが、祈りの核は感謝であらう。先日、もうすぐ 90 歳になる近親の外科医が、怪我して手術した。彼は、そのことを僕に伝えてき

た。

「僕は、感謝の祈りが信仰に繋がると漠然と思っている。数年前、なんのことはない平坦な道で突っかかり、手でカバーしたにもかかわらず、思い切り顔を強打し、裂けて 9 針も縫う手術をした。その時『神さま、ありがとうございます。この年寄りに、若い時と同じだと思ったら駄目だよ!と教えてくださって』と瞬間的に口から出た。また、妻が家で転んで足を骨折して入院したが、おかげで、いろいろ検査した結果、他の病気が見つかった。有難いことだと感謝している。妻が入院してから毎日曜日（集会祭儀、月1回だけミサ）教会に行っている次第。なんだか分からないが」と伝えてきた。

「人間は、祈りで神と繋がり親しい関係をもちますね、神と繋がることが信仰でしょう。いろいろ不祥事が続いて普通なら心が落ち込むケースです。それなのに不祥事、不幸が続く内に恵みのメッセージ

を見つけて感謝できるのは、貴兄の心が神に向かっているからでしょう。感謝の念が毎日曜日、体を教会に運ばせるのでしょうか。単純、謙虚にその道を真っすぐ進みましょう」と僕は返信した。

実に、苦しみの中に喜びがある。敗戦後の食糧難時代、小学生の僕は祖母と農作業をともにする相棒になった。子どもには、農業労働はきつかった。祖母は僕と動きながら、「人間には、1 生かかっても埋まらない『穴』があるよ」と笑いながら話しかけた。『穴』とは、口➡のことだ。

食料難時代を生き抜くために家の周辺のあたごちの空き地を借りて耕しまくった。大根、トウモロコシ、トマト、サヤエンドウ、カボチャ、葉もの野菜など毎年作った。種まき時、僕は学校から帰宅すると、畑に行き行って鋤で耕したり、コヤシを厠から汲み取り2つのドラム缶に入れて、天秤棒にぶら下げ担いで、いとかぐわしき香りを振りまきながら畑まで運んだ。友だちと遊びたかったが、祖母を放っておけず、また、あの収穫の小躍りしたくなる豊作の歓喜に浸りたかった。それは、まさに天の恵み労働の賜物であった。実に、第二次世界大戦の大空襲や原爆投下、



学童疎開船で数知れない子供、乳幼児が、無差別攻撃により、むごたらしく命を奪われた。心張り裂ける思いだ。かたや僕は生かされて、元気に働き、天の恵みを歓喜する者となった。そこには、心底からこみ上げる感謝の念しかない。

「いつも喜べ、絶えず祈れ、何ごとにも感謝しなさい」とパウロは手紙に書いた。パウロの叫びだ。どのような環境、立場にあっても、心が神に向かい繋がってれば、パウロのように叫べるだろうと思う。

日本で地震は生活の1部であるから、常に備えよだが、今の世の中の状態は無茶苦茶である。大国が世界を分割支配する動きがある、世界の富豪勢力が、平和の旗をかかげて人間牧場をつくり、世界中の人間を家畜のように支配するのではないかという指摘もある。しかし、いかなる闇が世界を覆っても私たちは信仰を命として生きるものである。私たちは、無上無限の慈しみに包まれ、人々に支えられて生きている。神と人々とが縦横に繋がる豊かな関係において生かされている。

聖書の「…わたしの愛に包まれて常に生きなさい」(ヨハネ 15-9)の御言葉に全力で傾注したい。私たちは片時も離れず、いつもキリストとともにある。今の時代こそ、単純謙虚に、喜んで、祈って、何ごとにも感謝して明るく生きようと思ふ。



福祉部からのお知らせ

「ラウダート・シ」ゴールズ - LSGs (毎月、7項目のLSGsを1項目ずつ掲載します。)

5. エコロジカルな教育を

エコロジカルな意識と変化をもたらす行動とを醸成するため、カリキュラムや学習環境を、インテグラル・エコロジーの精神で見直し、刷新することです。具体的な実践としては、公正な教育機会の確保、人権意識の向上、『ラウダート・シ』の問題提起の共有、エコロジカルなリーダーシップの奨励（学生だけでなく、教師に対しても）、生態環境の復元活動などがあります。



司教協議会「ラウダート・シ」部門 HP より引用

1) 関内支援グループ 米の寄付のお願い

信徒の皆様から毎月 100kg 近いおにぎり用の米の寄付をいただき、感謝しております。冬場は、生活困難者の増加もあり、米が不足する状況が続いており、引き続き米の寄付のお願いを継続します。1階集会室の関内支援グループの衣装ケースに入れて下さい。(LSGs -2,7)

2) 福島やさい販売

12月28日の販売も結果は以下の通りです。

販売高： 114,580 円

NPOへの寄付金： 5,230 円

加えて、信徒の活動グループ「ファミリーホーム等支援グループ」により、36,000円分の野菜と果物が2ヶ所の児童養護施設に寄付されました。

次回の野菜販売は、2月22日(日)10時～12時半まで、教会前庭です。新鮮な冬・春もの野菜等にご期待ください。

また、この販売活動を支援するボランティアを募集します。是非、仲間に加わって下さい。世話人のSもしくは福祉部員に連絡ください。(LSGs-4、7)

3) ステラマリス・毛糸の帽子サークル

毎月、第4水曜日13時～15時に2階の集会室で、毛糸の帽子を編んでいます。帽子は、横浜港に寄港する外航貨物船の、主にアジア出身の船員にプレゼントされます。ステラマリスの活動は、カトリック教会が、全世界で展開する船員司牧の役目の一端を担っています。毛糸を編んだ事のない方も気軽に参加して下さい。次回は2月25日です。(LSGs-2,7)



教会委員会からのお知らせ

教会委員会の議事録から

※委員会議事録のうち、信徒の皆さんにお伝えしておきたいことがらを抜粋しています。議事録の詳細は事務室に備えているファイルをご参照ください。なお、項番は議事録原本のものです。

【日時】 2026年1月18日(日) 12:00~14:00

【場所】 戸塚教会 2階会議室

【開催の挨拶(主任司祭)】

2月6日(金)13:00~13:30 に関東電気保安協会の屋上変電設備点検があるため、屋上工事業者に伝えておく。また、大きな音の出る工事については予定を知らせる。→管財部より工事業者に連絡済み。

【議事】

1. 協議事項

(1) 2025年度決算報告書・2026年度予算案の検討・承認(財務)

2025年度決算および2026年度予算計画について配布資料をもとに報告し、了承された。

(2) ミサ行事日程表の確認(広報)

配布資料をもとに報告。3月14日(土)、15日(日)に四旬節しゃべり場を追記する。

(3) 信徒大会の準備(総務)

※1/31(土)より資料配布開始。信徒専用ページに掲載(パスワードは昨年と同じ、メール連絡網に記載)。FAX送信・郵送希望者には郵送する旨を伝える。

⑦ 質問受付: 3/1(日)締切(意見箱・メール・郵送)。3月教会委員会で検討し回答する。全体的な質問への回答は「教会だより」に掲載する。

(4) 駐車場整理係増員について(総務)

◆2026年度で3人体制が必要な候補日:

- ・聖土曜日徹夜祭復活の主日
- ・復活の主日(洗礼式)
- ・聖ペトロのお祝い
- ・敬老のお祝い
- ・フリーマーケット
- ・クリプタ合同慰霊追悼ミサ(11月第1週土曜 10:30~)
- ・七五三のお祝い(サンパウロ出店)
- ・クリスマス夜半のミサ
- ・2027年1月1日 神の母聖マリア 新年ミサ

※通常主日は2人体制で調整中。立て看板の設置・回収を確実にを行う。

※典礼部はミサ準備・片付けがあるため係としない。

※教会手前の道幅の広いガードレール付近での乗降は可。それ以外の場所での乗降は控えるよう伝える。

2. 報告事項

(1)主任司祭 特記事項なし

(2)教会委員長

教会隣家(売家)についての情報提供。

(3)財務部

1/24・25「世界子ども助け合いの日」献金を行う。協力を依頼する。

(4)総務部 特記事項なし

(5)管財部

聖堂屋上防水工事を1/13(火)~3/13(金)(日曜除く)で実施中。工事資材・車両が入るため安全に注意する。

(6)典礼部 特記事項なし

(7)教学部

① 四旬節「しゃべり場」: 3/15(日)ミサ後に開催。「十字架上のイエスの7つの言葉」を黙想し分かち合う。音楽を流すことも検討する。

② 1/18しゃべり場: 地区会を兼ねる。

③ 2/15しゃべり場: テーマ「今までで一番思い出に残っている食事」。四旬節前最後の主日のため、ミニ謝肉祭として肉類(ソーセージ等)と飲み物を提供する。

④ 2/23(月・祝) 横浜教区教会学校リーダー研修会(戸塚教会)。教区の依頼により教会全体で対応する(昼食場所、モニター利用など)。

(9)広報部 特記事項なし

(10)福祉部 特記事項なし

(11)行事親睦部 特記事項なし

**【次回 委員会の日程】 2026年2月14日(土)
10:00~(2階会議室)**

